

# 美術科学習指導案

指導者 中本 美奈子

**日 時** 平成24年12月 1 日 (土) 第 3 校時 (13:00~13:50)  
**年 組** 中学校第 3 学年 1 組 計40名 (男子19名, 女子21名)  
**場 所** 中学校美術教室  
**題 材** THE JAPAN 日本の美を愛でる～顔料の美しさ・わたしの色・東雲八十色～

## 題材について

「日本の美術」と言えば、「浮世絵」をイメージする生徒が 43%であった。(広島大学附属東雲中学校 3 年生の日本美術に関する意識調査 2012) 小学校図画工作科を含め、これまでの学習における知識、作品の持つインパクトから、葛飾北斎や安藤広重などの浮世絵作品を想像したと考える。しかし、日本には縄文土器を初めとして、仏像や絵巻、水墨画、屏風絵、日本画 (一般的に明治時代に到来した洋画＝油絵に対して言われるようになった言葉)、工芸・陶芸など実に様々な美術作品が存在している。また、それらの作品には、「花鳥風月」といった自然を主題としたものが多く、自然を愛でる日本人の感性や情緒豊かな季節感を醸し出している。そして、日本美術作品の多くに使われている色材としての顔料は、奈良・平安時代から天然の岩や土を材料としている。この顔料をもとに、絵巻や浮世絵、日本画などの美術作品は彩られている。

本題材は、日本古来から伝わる伝統色名を知り、またその素材となる顔料に触れ、基本的な色づくりを学習した上で、「わたしの色」(オリジナル色)を作り命名し解説するものである。日本の伝統色には、牡丹(ぼたん)、若竹(わかたけ)、鴝色(ときいろ)など、花などの植物や動物、自然物に因んだ呼び名がつけられている。その名の意味を知るとは、四季や自然に寄り添う日本人の感性を理解することにつながると考える。また、顔料として、水干絵具を使用する。水干絵具は、天然土などを原料とし、きめ細やかさと鮮やかな発色で混色しやすいのが特徴である。不揃いなフレーク状になっており、乳鉢等で空ずりをして塊を細かくしてから膠を溶かした膠液で練り、水で薄めて使用する。これまで、チューブ絵具を主に使用してきた生徒にとって、古来からの絵具の作り方を知るとは、今後の日本美術の鑑賞をする上で、作品に対する見方や感じ方が一層深まると期待する。また、水干絵具で「わたしの色」を作り命名する過程には、そこに何らかの根拠がある。その根拠を明確にし、鑑賞会においてその色を作った理由や命名の理由を解説し、制作者の価値感を共有したり、また、批評し合ったりすることによって、自分の中に新しい価値感を創り出すことができると考える。

本学級の生徒は、明るく、反応がすぐ返るなどの素直な面がある。しかし、挙手をして発言することが少ないなど今ひとつ積極性に欠ける場面が多々あり、自分に自信がないことが推察できる。また、これまでの鑑賞の学習では、2年時には、ヤン・ファン・アイクの「アルノルフィーニ夫妻の肖像」を図像学の視点で、ヨハネス・フェルメールの「牛乳を注ぐ女」を色彩という視点で、アルブレヒト・デューラーの「メランコリア I」をアトリビュートという視点で鑑賞学習をしてきた。特に日本美術に関わる学習においては、1年時に仏像や漆による堆朱をキーホルダー制作を通して学習し、2年時には「鳥獣人物戯画」、3年時には「信貴山縁起絵巻」、骨董品を主とした陶芸作品についての鑑賞が既習である。しかし、色材として水干絵具や岩絵具に着目した日本画に関わる学習は表現分野においても経験はない。

指導にあたっては、日本の伝統色や日本人の感性に興味を持つことができるよう、クイズ形式でその色と名前との関係性に着目するなどして、興味喚起を行う。また、実物の日本画作品を鑑賞したり、水干絵具を使用したりすることによって、今まで使用してきた水彩絵具やポスターカラーとの発色や材料な

どの違いに気づかせたい。また、生徒にとって膠を扱うのは初めてであるため、初心者でも扱いやすい、すでに溶いてある膠液を使用し、手間を省略する。色と名前の関係性を意識するようにし、生徒が命名の着想を得やすいようにする。ひとり一人が「わたしの色」作品を、「わたし自身」同様に価値あるものとして制作するために、1・2組の生徒80名全員で「東雲八十色」を作ることを一つの目標とする。鑑賞会においては、命名の由来や、なぜその色にしたかなどの理由や思いを共有し、また批評し合うことにより、個の価値観を一層広げたい。一つの鑑賞の視点として古来からの絵具の作り方に触れることによって、今後日本美術を鑑賞をする際に、見方や感じ方がより深まることを期待したい。

### 指導目標

1. 日本美術や伝統色、絵具の作り方に関心を持ち、意欲的に「わたしの色」づくりができるようになる。
2. 限られた種類の顔料から、「わたしの色」を着想し、命名することができるようにする。
3. 水干絵具を正しい手順で扱うことができるようにする。
4. 「わたしの色」について根拠をもって解説し、それをもとに批評し合うことによって新しい価値を得ることができるようにする。

### 指導計画

1. 日本の伝統色って何？顔料って？・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1時間
2. 水干絵具体験と「わたしの色」づくりについて・・・・・・・・・・ 1時間
3. 「わたしの色」づくり・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2時間（本時は1時間目）
4. 「わたしの色」鑑賞会・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1時間

### 本時の目標

命名、解説することを踏まえ、見通しをもって「わたしの色」づくりを楽しみ、友達の色づくりについて批評することができる。

### 「学びのつながり」の視点

I期・II期で内言の高まりやコミュニケーションを通して美術作品に対する見方、感じ方、作品と向き合う姿勢を培った。本授業は、それらの学習活動を活かしつつ、伝統色の知識や混色の理論「科学知」と「生活知」を、「わたしの色」制作をとおして、科学知と生活知の「のぼりおり」を促す活動であると考えている。

※図画工作科・美術科では、鑑賞学習における「科学知」を「作品や作家そのものに関する知識、美術史、色彩や構図の理論などの客観的な知」、 「生活知」を「個々の生活やそれまでの学習の中で培われる経験的な知」と捉えている。

### 学習の展開

学習活動と内容	指導上の留意点（◆評価）
1. 前時の振り返り(7分) □水干絵具の扱い方 ・顔料の溶き方など	○授業開始前に道具を準備させておく。 ○前時で学習したことを、生徒から意見を引き出すようにして、確認、共有をする。
□「わたしの色」づくりについての確認	○ワークシート、発想用画用紙、作品用和紙配付

<ul style="list-style-type: none"> <li>・必ず混色すること。</li> <li>・自然物に因んだ名前を日本語で命名すること</li> <li>・命名の理由（根拠）を解説すること。</li> <li>・3年生全員の「わたしの色」作品で東雲八十色をつくること。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○日本の伝統色の色名には、自然物に因んだ色名がつけられていることを再度確認する。</li> <li>○ひとり一人の作品が揃って、一つの作品になる（共同作品）ことを伝える。</li> </ul>
<p>□制作の見通しをもつ。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・本日と次回の2時間で完成する。</li> <li>・途中批評会をして、色づくりの精度を高める。</li> <li>・次回作品を提出できるようにしっかり色づくりする。</li> </ul>	<p>◆意欲的に話を聞こうとしているか。 【美術への関心・意欲・態度】</p>
<p>2. 「わたしの色」づくり制作（33分）</p> <p>□班の形になる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・四人で一つの班になる。</li> <li>・一つの水干絵具セットを一つの班で共有する。</li> </ul>	<p>○班の一つ、水干絵具セットを配付する。</p>
<p>□制作する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・色名を考えると共に色づくりを行う。</li> </ul> <p>□批評タイム</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・班の中で、途中段階における色づくりについて批評し合う。</li> <li>◎色名と色味の相違などの客観的な意見</li> </ul>	<p>◆積極的に色づくりを試し、色名を考えているか。 【美術への関心・意欲・態度】</p> <p>○制作状況を見ながら、臨機応変に批評タイムをとる。</p> <p>◆積極的に友達の色づくりについて批評しているか。 【鑑賞の能力】</p>
<p>3. まとめ（10分）</p> <p>□片付け</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・発想用画用紙，作品用和紙は，乾燥棚に入れる。</li> <li>・筆やパレットを洗う。</li> </ul>	<p>○片付けが間に合わない場合は、授業終了後、速やかに洗うことを伝える。</p>
<p>□進捗状況を確認し、次回への見通しをもつ。</p>	

### 参考文献

- 浅見龍介ほか『日本美術の授業』日本文教出版，2006.
- 尾崎正明ほか『すぐわかる画家別近代日本絵画の見かた』東京美術，2012.
- 菅田友子『日本画の描き方』誠文堂新光社，2012.
- 福田邦夫『新版色の名前507』主婦の友社，2012.
- 文部科学省『中学校学習指導要領解説 美術編』日本文教出版，2008.
- 吉岡幸雄『日本の色辞典』紫紅社，2009.